

2 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

①～⑪はだん落の番号です。

1 みなさんは、イソップ童話の中に出てくる「うそつき少年」の話を知っていますか。羊の番をしている少年が、おおかみがいけないのに、「大変だ、おおかみが来た。」と言って、村の人たちをたびたびだましました。そのため、本当のおおかみが出てきた時、少年が「おおかみが来た。」と言って助けを求めても、村の人たちは、少年の言うことをうそだと思つて、助けに行かなかつたという話です。

2 「大変だ、おおかみが来た。」というさげびは、実際におおかみが出てきた場合にだけ事実と結びついています。ところが、少年は(1)事実と結びつかない言葉を何回も使つたので、村の人たちから、少年の言葉は信用できないと思われてしまいました。そのため、本当におおかみが出てきた時の少年のさげびが、言葉の役を果たさなくなつていたのです。言葉は、事実と結びつけて使うことが大切です。

3 次のリレーの対抗戦を例にして考えてみましょう。五年の二組と二組が学級対抗のリレーをしました。それぞれ五人のリレー選手を出しました。(2)リレーの途中では、二組のほうが速く、四人が走り終わった時には二組が勝っていました。最終ランナーのところ、一組が二組をぬいて、勝つたのです。

4 このリレーのことを、一組の夏川^{なつかわ}さんは、「大勝利」という見出しで学級新聞に書くかと思ひました。二組は強敵で、勝つことがむずかしいと思つていたため、最終ランナーでの逆転勝ちは「大勝利」だと思つたからです。同じ一組の春村^{はるむら}さんは、最後のランナーが二組のランナーをあざやかにぬいたことが心に残つたので、「快勝」という見出しがぴったりではないかと思ひました。

5 一方、二組の秋田^{あきた}さんは、「おしくも敗れる」と、学級新聞の見出しをつけました。ほとんど勝つていたリレーだったのに、本当におしく

ころで負けたという感想をもつていたからです。

一組は二組に大勝利をおさめた。

一組は二組に快勝した。

二組は一組におしくも敗れた。

6 このように、事実と同じでも、表現する人の立場や感じ方によって、言葉がちがっています。

7 言葉がちがうと、受け取る側の印象もちがいます。③ですと、価値ある勝利であるとか、非常に強かつたということが印象に残りますし、④ですと、気持ちよく勝つたという印象があります。⑤では、勝ちそうだったのに、もうちょっとのところを負けた、という感じがします。そのため、一組の新聞を読んだ場合と、二組の新聞を読んだ場合とは、対抗戦について、言葉から想像する「事実」がちがってきます。

8 また、言葉のあたえる印象のちがいに注意を向けた、こんな話があります。数十年前のアメリカのあるデパートでのことです。同じ男子用ハンカチを、売り場の両端に分けて積んでおき、次のような札をつけておいたところ、①の札をつけておいたほうがよく売れたというのです。

①織りのやわらかい、交じりけのないアイルランドあさのハンカチー
フ 特価 三枚五十セント

②手ふき 三枚二十五セント

9 八時間の間に、①では、二十六人が手に取つて見て、十一人が買つて買ったのに対し、②では、六人が手に取つて見て、二人が買つていきました。同じ商品のハンカチですが、売れゆきにちがいがあつたのです。

10 どうしてこんなことが起きたのでしょうか。考えられることは、札に書かれた言葉の印象のちがいです。①が、よいハンカチを特に安く売ると感じられるのに対し、②には、人目をひかない言葉が書かれています。こうした印象のちがいが、前のような結果をひき起こしたものと思われまふ。同じ事実でも、言葉によつてちがつた「事実」の受け取り方をす

る、ということがよくわかるでしょう。そればかりか、人は、言葉だけを信用し、事実を目を向けずに行動してしまうことがあるのです。

11 これまであげてきた例のようなことは、わたしたちの日常生活の中でもよく起きています。事実と言葉が結びついていても、人がちがえばこ
となった言葉で表され、こととなった印象をあたえることがあります。そこ
には、一人一人のものの見方のちがいが表れているのです。そして時
には、「受け取る側にこんな印象をあたえよう」と考えて、言葉が用い
られることもあります。

(福沢周亮「言葉と事実」教育出版「ひろがる言葉 小学国語」五年上)

※問題の作成上、本文の表記を一部変こうしてあります。

1 (1) 事実と結びつかない言葉とありますが、それはどんな言葉です
か。文章中から、十二字で抜き出さない。(句読点をふくむ。)

2 3 だん落の(2)の——部「リレーの途中では、……一組が二
組をぬいて、勝ったのです。」という文は、一文が長くなってしまう、
伝わりにくい文になってしまいました。つなぎ言葉を使って、二つの文
に書き直しなさい。

リレーの途中では、

一組が二組をぬいて、勝ったのです。

3 7 だん落の(3) (5)の部分には、それぞれちがう言
葉が入ります。文章中からさがして書き抜きなさい。

(3)

(4)

(5)

4 次の の文はあるだん落の後に入ります。そのだん落番号
を書きなさい。

では、言葉は、事実と結びついていけば、どんな言葉を使っても同
じように受け取られるでしょうか。どうも、そうではなさそうです。
同じ事実と結びついていても、それを伝える人によって、使う言葉が
ちがってることがあるからです。

段落の後

5 この文章中に書かれていることと合っているものを、次のアエの中
から一つ選んで、その記号を書きなさい。

- ア 事実と言葉が結びついていても、人がちがえばこととなった言葉で
表され、こととなった印象をあたえることがある。
- イ 受け取る側によい印象をあたえようと考えて、しんちように言葉
を選ぶべきである。
- ウ 言葉は事実と結びついていければ、どんな言葉を使っても同じよう
に受け取ることができる。
- エ 人は必ず言葉だけを信用し、事実を目を向けずに行動してしまう
ので、どのような言葉を使うのかには気を配る必要がある。